

高齢者の移動手段を確保する取り組みは

竹村 仁司議員



持続可能な移動手段を検討したい
保険福祉部長



▲みんなでつくる巡回バス

問 自動車を運転できない高齢者の増加に対応する課題は。

答 巡回バスの運行を市内4地区でフルルート及び海南病院ルートの計8ルートによる路線定期運行を無償で行っている。

今後も、利用状況や利用ニーズ、本市を取り巻く社会情勢の変化などを見て検証を進め、利用者の利便性を高めていきたい。

問 本市の高齢化もますます進む。福祉サービスという、より実生活に密着した高齢者の移動手段を確保する本市の取り組みは。

答 高齢者の移動手段として巡回バスもあるが、外出支援を目的に高齢者福祉タクシー事業を進めている。65歳以上の独り暮らし世帯や高齢者のみ世帯の方、令和2年7月からは80歳以上の方など幅広い年齢層の2千人以

上の方に利用され、近隣の多くの自治体と比べても小回りの利くサービスとして提供している。

その他にもボランティアや地域の助け合いといったことも含め、持続可能な移動手段を検討したい。

問 主要駅周辺を中心にした集約型まちづくりは。

答 藤浪駅西側の都市計画道路の整備と勝幡駅前広場やアクセス道路の整備を実施。現在は、左屋駅周辺整備事業に加え、官学連携事業を活用して藤浪駅前広場の改修事業を行っている。

問 主要駅周辺を中心にしたまちづくりとなる、立田・八開地域をカバールすることが難しいが。

答 令和2年4月から巡回バス運行検討委員会の提言を受けて、立田・八開地区のルートは、バス停の増設及びルートの見直しを行った。通勤・通学の公共交通に係る先進地事例の調査・研究を含めた協議を進めていきたい。

問 移動手段の確保によるまちづくりに対する市長の見解は。

答 高齢者福祉タクシー事業は、利用対象を年々緩和し、検討し直している。今ある事業を駆使しながら、市民の移動手段の確保に努めている。

2022/11 愛西市議会だより 20